

シター

～身近な教育委員会 テーマ「iCSの推進」～

発行元：教育委員会事務局 地域教育力推進課 地域連携係 TEL3579-2619

5月26日（金）に開催された「身近な教育委員会（※）」では、導入から3年経過した「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）」をテーマとして取り上げ、その成果や今後の課題などを報告し、参加者のみなさまに「熟議（※）」を体験していただきました。その内容をご紹介します。

（※）身近な教育委員会とは：区教育委員会では、開かれた教育委員会の実現をめざし、地域や保護者の方が話し合いに参画できる「身近な教育委員会」を定期的で開催しています。

（※）熟議とは：「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決をめざす対話のことで、CS委員会での合意形成の基本となるものです。

第1部：「iCSの推進」について報告

第1部では、地域教育力推進課長よりiCSの推進について報告しました。

① iCS導入の経緯

区では従来から「学校支援地域本部」による学校支援活動が盛んに行われています。学校支援地域本部は、学校が求める支援に対し、地域コーディネーターが中心となり地域の人材をつなぎ支援する取組です。

学校課題の多様化・複雑化とともに「学校だけ」による経営から脱却し、「地域とともにある学校」への転換をめざし、令和2年度に全校に「コミュニティ・スクール委員会（CS委員会）」が導入されました。

iCSとは

コミュニティ・スクール委員会と学校支援地域本部を「両輪・協働」の関係で運営する仕組み

めざす姿
地域とともにある学校

② CS委員会での熟議

「より深い相互理解」「より効率的な共有の場」を委員のみなさんと作るため、様々なテーマの「熟議」が行われています。

③ iCSの取組による成果（事例紹介）

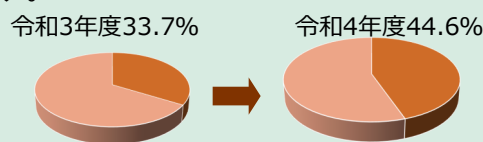
緑小学校では、校庭改修のタイミングでビオトープを設置することについてCS委員会で熟議を重ねました。

iCSの仕組みが活用されて、「自然とのつながり」「人とのつながり」を大切にする教育活動が展開されています。



④ iCSアンケート調査の結果

学校を対象としたアンケートでは、「地域の力を活用することで、児童・生徒への指導等に注力できる時間が増えた」と感じる教員の割合が増えています。



【教育委員からの意見】

- ・各学校のCS委員会の議題は、学校の規模や地域の様子によって様々であるが、真剣に話し合う姿が大変印象的。今回の情報共有を通じて、CS委員会での議題はさらに多様化すると思う。
- ・CS委員の方々から多様な意見をいただくことは、ダイバーシティの推進で重要。子どもたちを多くの目（地域や家庭の目）で見守ることで安心感を与え、自己肯定感を育むことになる。
- ・参加者のみなさんに、iCSの本質を知り、それを学校にフィードバックしていただきたい。また、各学校での悩みなどを共有し、建設的な改善にご協力いただきたい。

第2部：熟議「板橋区の子どもたちにどんな大人になってほしい？」

第2部では、参加者64名が9つの班に分かれ、熟議を体験しました。最後に4つの班から発表していただきましたが、その一部をご紹介します。

手順① 下記①②の問いに対して個人で考え、その後、班内で意見を伝え合う。付せん1枚につき1つの意見を書き、模造紙に貼りながら意見を伝える。

①板橋区の子どもたちに、どんな大人になってほしいですか。

②そのために、学校と地域が連携して、ご自身の立場ではどんなことができると思いますか。

手順② 班内で意見をまとめる作業を行う。似た内容の意見をグルーピングし題名を付け、そのグループ同士がどうつながるか、などを考える。

熟議のルール

- ・人の話はよく聴く（意見を尊重する）
- ・人の意見を否定・批判しない（安心して意見を言える場を作る）

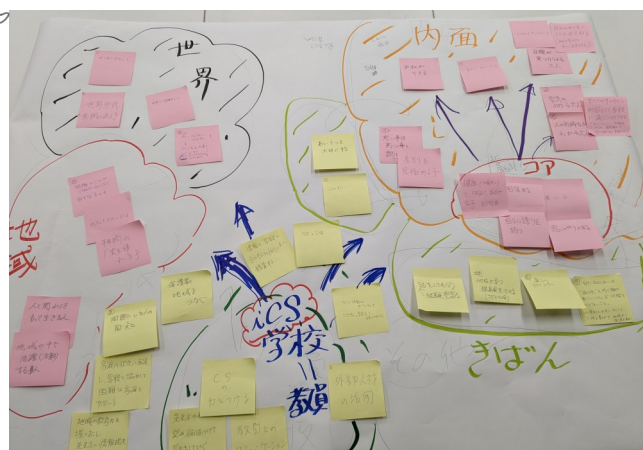


① 一番多い意見は「思いやりがある」。他に「主体性がある」「挫折や失敗を乗り越えられる」など。

② 「子どもたちに大人の背中を見せていきたい。自分自身がリーダーになる」など、自分たちで何かをやるという意見がたくさん出て、学校に何かしてほしいという意見は出なかった。「ICS」を中心にして、地域が子どもの育ちを助けていく、という形が見えた。

① 内面でコアとなるのは「自信がある」「思いやりがある」。このコアを大事にすれば、「悪いことは悪いと言える」「目標が見つかる」人になる。内面を大事にしたら、次は地域を大事にしてほしい。これらを大事にしていくと、「多様な世界の中で生きることのできる」大人になるのではないかな。

② 「ほめる」「人として生きられる力を付ける」ことが大切で、まずは教員・学校が担うべきだが、機能しきれない部分もある。機能させるのに一番大事なのは「ICS」ではないかな。



最後に教育長から、「学校の役割は『子どもたちが安心・安全に過ごすことのできる居場所づくり』と『子どもたちが自己実現できるために確かな学力の定着・向上を図ることができる学び舎づくり』。ICSの仕組みを活用することで、“教職員だけ”による学校経営から脱却し、子どもや保護者、地域の方々など学校に関わるすべての方で学校経営を担い、みなさまの知恵や経験を活かした教育活動を展開していくことが、子どもたちの明るく元気で前向きな成長につながる。」といったお話がありました。